



愛する信仰の家族のみなさん! アドベント4週、クリスマスの一週間の間もキリストの平安のうちにお元気で過ごされたでしょうか。本日は2020年最後の主日礼拝となります。そして、幸いな年末年始を迎えられますように切にお祈り申し上げます。今年はコロナ禍の為、全体のクリスマス祝会は中止となり、分散アワナクリスマス会や各牧場毎のクリスマス会で行われ、無事終わりました。その為よく準備して下さったアワナ先生たちや各牧場の牧者たち、牧場の家族にも心から感謝致します!本日はもう今年最後の主日礼拝となり、送年感謝礼拝として捧げる日を迎えました!

今年一年は新型コロナのパンデミックによって、予想していなかった事態がよく発生し、みんな大きな混沌と暗闇の中で大変な一年を過ごして来ました。多事多難だった今年、みなさんにとってどんな一年でしたか。手におえない人生に対する2つの見方があります。人生の全てが暗闇の中で、失敗や過ちだらけの人生として思い込んでいる方もいれば、暗闇の中にあっても光を見出し、今までの人生全てのもが神の恵みであり、奇跡として受け止めている方もいます。大変な一年でしたが、わたくしはどんな年よりも、以前の平凡な普通の日常だけでも、実は神の特別な恵みであった事に、より深く気づかされた一年でした。教会の礼拝や教会、牧場でよくあった食事の交わりや各種の集まりが、自由に出来なくなった状況の中、今まで当たり前のように思い込んでいた自分を悔い改めつつ、今まで気づかなかった深い感謝を見出してあります。どうか苦しみの中にあっても、主の前で今年今までの歩みを振り返りつつ、感謝を見出し、共に神に感謝を捧げ、共にその感謝を分かち合っ

<1. 謙遜な姿で来られたイエス・キリスト>

2020年前のイエス様の誕生をみるとその方がどれほど謙遜な姿を取り、この世に来られたのかが分かります。

神の御子、人類を救うために来られたメシヤなるイエスキリストが赤ん坊の姿で来られたのではありませんか。

みなさんはこう想像して見たことがあるでしょうか。全能なる神様が、一番弱い時の赤ちゃんの姿で来られ、10ヵ月もの間、女性の子宮で過ごされたということが何を意味するのか、じっくりと黙想して見て下さい。エリザベス・ガンドルフォの表現を借りるなら、「全能なる神がお腹を空かせて泣き、自分一人ではトイレにも行けず、鼻水をたらす小さくてしわくちやの赤ちゃんになられ」たのです。人類を救えるメシヤなるイエスキリストがわたしたちと同じようにお腹が空き、のどが渇き、涙が流れ、疲れを覚え、血が流れるからだを持ち、その身をもって人から裏切られ、何度も殴られ、十字架につけられるまでご自身を低くさせ、従われたイエス様の姿を通して、慰めを受けられるのではありませんか。

それだけではなく、イエス様は華麗なエルサレムではなく、イスラエルでも注目されなかった小さなベツレヘムでお生まれになりました。少し考えてみれば、これはとつてもすばらしいことです。それだけではなく、神の御子が旅館でもなく、馬や牛が休むところ、しかも動物らの餌(えさ)の桶(おけ)でお生まれになったのでしょうか。小さいころ、私は神の御子が家もなく、そんなみずぼらしいところで生まれたという事が信じられませんでした。しかし、聖書によると、それは決して偶然でも、神の過ちでもありませんでした。神様のご計画と深く摂理のもとでそうなされたのです。どうやって神様であられる方が、救い主であるメシヤがそんな場所を選んで、お生まれになったのでしょうか。

愛するクリスマンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん! イエス様のこの馬小屋 飼い葉桶でお生まれになられた事は何の意味があるでしょうか。世の中の一番貧しいところ、一番低いところがまさに、馬小屋の飼い葉桶ではありませんか。イエス様はお生まれになられた時からこのように一番弱い姿で、一番低いところであられたので、そのイエス様の謙遜が生涯どんな大変な環境や苦しい境遇に置かれても比較したり、うらんだり、つぶやきませんでした。そしてどんな不便な環境や状況も耐える事が出来たのではないのでしょうか。ここで、イエス様を通して、我らも人生の中で、謙遜はいのちのように大切であることを学ばされるのではありませんか。絶えず、聖書では自分を低くさせ、謙遜になるよう促して下さっています。

結局、多くの問題は、環境でも、他の人でもなく、自分を低くさせない、謙遜になれない自分の問題が多いのではありませんか。人は自分の中大切だと思っている価値観、期待している基準、絶対正しいと思い込んでいる固執、理想、目標、目指す方向をいつも高いところへ、高く、高く、上ばかり目指している為、比較意識、被害意識、恨み、葛藤などが多いのではありませんか。

今日の本文3節には、まず我らがそうならないように、こう教えながら、イエスキリストの謙遜の模範をモデルとして示して下さい。『何事も利己的な思いや虚栄からするのではなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。』

イエス様の生涯を考えると胸が裂かれるように震えます。イエス様は“狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には枕する所もありません。”と言われました。イエス様は泊まるご自身の家のところすらなく、時々よく山の上で野宿されるほど、ご自分のすべてを無にされておられる生き方で歩まれたイエスキリストの真の謙遜さを学ばされます。

<2. 低くさせたイエスキリストの謙遜な具体的な姿: 最後まで従う+仕える姿勢>

今日の本文6-8節で、「キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考え、ご自分を空(むな)しくして(無にして)、しもべの姿(仕える者の姿)をとり、人間と同じようになられました。(キリストは)人としての姿をもって現れ、8自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。』この地に来られたイエス様、その方の生き方のもとは何だったのでしょうか。そうです。謙遜でした! ご自身を低くさせたイエス様のその謙遜は具体的な仕える姿、従う姿であられました。

イエス様は神様なのに神様のあり方を捨てることをおしまず、むしろ自分を空しくし、無にして人と同じようになられ、死にまで従い、

実に十字架の死にまで従われました。イエス様は人間ではなく、神様であられるお方なのに、神様が創造されたそれとも、罪人を救うために、罪人と同じような姿とられました。そして、ついにその罪人たちを愛するがゆえに仕えて下さっただけではなく、人の全ての罪の代価として、ご自身を十字架にまでつけさせ、死なれるまで神のご計画に従われたのです。

この本文の一番大切な単語があればそれは「空しく(無)して」という単語だと思います。結局神様であられたイエス様が自ら自分を空しくして、一番低い者、しもべの姿とられ、仕え、従われた謙遜なイエス様の姿であったことを教えられます。イエス様の人生は、高いところへではなく、一番低い方向へと向かわれていました！

そのイエス様がヨハネの福音書13章イエス様は愛の残るところなく人を愛し、最後まで仕えて下さいました。

十字架にかかる前日、御自分が座るべき席に弟子たちを座らせ、むしろ腰をまげ、ひざまずいて弟子たちの足を洗われました。そして、そのイエス様は我々のために惜しみなく命まで捨てながら、最後まで従われました。まさにすべてご自身を無にさせたのです。この地に来られたイエス様の人生は謙遜そのものであり、仕える、従う生涯でした。イエス様がこの地に来られ、表して下さった核心価値(core Value)は謙遜(仕える、従う)しもべの姿でした。そのイエス様は信じる我らにもこう語って下さいました！

* ヨハネの福音書13章14-15、17節「14主であり、師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのであれば、あなたがたもまた、互いに足を洗い合わなければなりません。15わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、わたしはあなたがたに模範を示したのです。17これらのことが分かっているなら、そして、それを行うなら、あなたがたは幸いです。」

* マタイの福音書20章28節に、「人の子が、仕えられるためではなく、(かえって)仕えるために、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのと、同じようにしなさい。」

ルカの福音書22章27節を読んで見ましょう。「食卓に着く人と給仕(きゆうじ)する者と、どちらが偉いでしょうか。むろん、食卓に着く人ではありませんか。しかし、わたしは、あなたがたの間で、給仕する者のようにしています。」

さらに自分を低くする謙遜を実践する方法はほかの人を高くあげるとき可能になります。ほかの人を高くしてあげる時、我々ももっと低くされる謙遜を実践することができるでしょう。

若いころ異端にはまっていたアウグスティヌスと言う人は母の祈りによって悔い改め、中世の偉大な神学者になりますが、彼の残りの生涯は誰よりもイエス様に似ていくために頑張っていた生涯でした。ある日、弟子たちが彼に問いました。“先生、キリストが持つべき最高の姿勢は何でしょうか。”アウグスティヌスはこのように答えます。“一番目、謙遜である。”“すると、二番目は何でしょうか。”再び弟子たちが問うと、アウグスティヌスは“謙遜である”、“すると三つ目は何でしょうか。”

“三つ目も謙遜である”と答えたそうです。弟子たちが再び質問します。“先生、そしたら、謙遜の反対は何でしょうか？”するとアウグスティヌスは“それは高慢である”、すると弟子たちは“先生、最後に高慢とは何でしょうか。”アウグスティヌスは“自分が謙遜だと思うことこそが高慢である”と答えたそうです。自分が謙遜だと思う瞬間その人はすでに謙遜を失ってしまったということです。

サタンが始めての人間であるアダムを誘惑するとき、人生の方向をどこに向けさせますか？サタンはアダムにおまえはかみのようになると言いました。もっと高く！神のように高く！もっと高く！と高慢をそそのかします。このようなやり方こそこんにち、この世が我々を誘惑する方法ではありませんか。ところが、この地に来られた神様であるイエス様は違った生き方を表して下さいます。“低くなりなさい！もっと低くなりなさい！”“謙遜になりなさい。仕えなさい、従う者になりなさい”これが神様であられるイエス様の降誕から十字架の死に至るまで我々に表し、教えてくださる真のキリストのあり方であり、生き方です。

初人間だったアダムは不従順と高慢の罪を犯しました。アダムは神様になれないのにもかかわらず、神様のようになりたがりました。その高慢が彼を不従順にさせました。しかし、最後のアダムを象徴するイエスキリストは神様であるのに、愛の残るところなく仕えるしもべとられ、罪人たちの為に仕え、十字架で死なれるまで神の御言葉に従われました。そういうわけで神様は御子イエスキリストの御名を高くあげて下さいました。

イエス様は我らにご自身を通して謙遜を学び、その謙遜によって与えられる神の安らぎを得られるように命じて下さっています。「わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。(マタイの福音書11章29節)」仕えることと従うことは謙遜と一緒にくっついていきます。仕える者が謙遜な者であり、従う者従順する者が謙遜な者であります。

<3. 謙遜の聖書と原語の意味>

「謙遜」はヘブル語で「アナウ」という言葉で「低くされる、苦しみを受ける、柔和な」などのような意味を持っています。

特に謙遜を意味するアナウという言葉には苦難の意図的な結果や苦難の目的と関係がある言葉であって、謙遜という品性の実は苦難をとって神様から頂ける尊い品性の一つであることは分かります。ですから、苦難の中にいる方々はこの時が決して無駄にならないことを信じて下さい。

そして、もう一つラテン語では「謙遜」と言う言葉は「フミリタス(humilitas;英humility)」と言う言葉です。面白いところはこの単語の語源が「フムス(humus)」つまり、「地」を意味する言葉から始まったと言う事なのです。愛するみなさん！地はどんな所でしょうか。ある意味で、この世の自然万物の中で地が一番低いところ、みんなに踏まれる所、すべてを受け入れるところ、だから一番汚いところが地ではないでしょうか。しかし、その地の中にいのちが蒔かれ、根をおろし、芽生え、花を咲き、ついに実を結ばせる美しいところも地なのです。みなさん！なぜあんなに一番低いところ、あちこちから踏まれ汚れたところである地がいのちを育て、いのちを結ばせ、いのちを倍加させる美しいところに変わるのでしょうか。地は上を、空を見上げてい

るからなのです。空の光、エネルギーを頂くからなのです。謙遜も自分を低くし、神様を見上げる者のみに与えられる、結ばれる神様の品性であることをまず忘れないで行きたいと思います。

パーケーパルマル(Parker J.Palmer)は平安をもたらす謙遜についてよく表わしました。“謙遜は我々を低いところに導く。そこは立っていても安全で、倒れても平気な地である。謙遜はその中でもっと充滿な自我を見いだすことができる。”

みなさん!人はしきりに認められたい、高いところに上がろうとしています、実は一番低いところにいる時一番安全です。揺るぎません。一番低いところにいる時、我々は存在自体に満足することになります。

神様は謙遜という器に大切な恵み、知恵、平安と高くさせてくださる祝福を約束されました。

<4. 謙遜!さらなる神の祝福を蓄える器!>

高く上げられた謙遜なイエスキリスト:自ら一生低くされたイエス・キリストを神様はそこで終わらせません。本文の9-11節「それゆえ、神は、この方(キリスト)を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが、ひざをかがめ、すべての舌が、「イエス・キリストは主である。」と告白して、父なる神に栄光を帰するためです。」

神様はイエス様をどうされましたか?神様と人間のために自分を低くしたら神様はイエスキリストを高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。そして、すべての万物がひざをかがめ、すべての口が“イエス・キリストは主である”と告白するようにされました。神様は一番低くされたイエス様を一番高く上げました。反対に一番高慢で高く上がっていたサタンを地獄にまで低くさせ裁くように決めました。神様は自分を大きいものだと思う者は用いられません。用いないだけではなく、むしろ退けられると言われました。

「なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。(ルカの福音書14章11節)」

神様は謙遜な人に恵みを施してくださると約束されました。

「神は、さらに豊かな恵みを与えてくださる」と。それで、こう言われています。「神は、高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与える。(ヤコブの手紙4章6節)」

そして神様は謙遜な者を大切に思われ、高くあげてくださると約束されました。

この世から見れば、謙遜な人は力がなくいつも負け犬のようで、損ばかり受けているように見える時があるかも知れません。しかし、神様は時が来たら謙遜な人を高くあげてくださいます。「ですから、あなたがたは神の力強い御手の下(もと)にへりくだりなさい。神は、ちょうど良い時に、あなたがたを高く上げてくださいます。(第一ペテロの手紙5章6節)」

そして、神様は謙遜な者に知恵もくださると約束されました。

「高ぶりが来れば、辱(はずかし)めも来る。知恵はへりくだる者とともにある。(箴言11章2節)」

「主を恐れることは知恵の訓戒である。謙遜は栄誉(えいよ)に先立つ。(箴言15章33節)」

愛する信仰の家族のみなさん! 謙遜の反対である高慢はどれほど恐ろしいものだと知っていますか。

高慢は破滅に先立ちます。「高慢は破滅に先立ち、高ぶった霊は挫折に先立つ。(箴言16章18節)」

イギリスのC.S.ルイスはこう言いました。“高慢は霊的癌です。それは愛や、感謝、自足する心だけではなく、常識までかすめとります。”高慢は我々の霊的な目を閉じさせます。高慢になると耳もふさいでしまいます。常識が通らず、一人将軍になってしまいます。しかし、へりくだる者に知恵が与えられるのは、自分の足りなさを自分が感じ知恵を求めるからです。高慢な人はいつも自分が正しく、自分がすべてを知っていると錯覚しているため、学べないが、へりくだる者はいつも自分の足りなさを感じ、悟ります。どんなに学んでも足りないと思うので、神様の御言葉を学ぼうと努力します。そういうわけで、学べば学ぶほど謙遜にならざるを得ません。謙遜さによってほかの人よりもたくさんの知恵と悟りを得ていても彼はもっとへりくだります。なぜなら、彼に授けられた知恵と悟りは自分から出たのではなく、神様から与えられたことを知っているからです。

祈りの人ジョージミュラー先生が設立した孤児院の園長フレド・バーガーという方は一生涯主に仕えた後、次のような遺言を残しました。“神は人が小さすぎて用いられないことではなく、大きすぎて用いられないのだ。”

イエス様は、大人の人々に子供を立たせ、こう教えて下さいました。

マタイの福音書18章4節に「だから、この子どものように、自分を低くする人が、天の御国で一番偉いのです。」

「それゆえ、あなたがたは神に選ばれた者、聖なる者、愛されている者として、深い慈愛の心、親切、謙遜、柔和、寛容を身に着なさい。(コロサイ人への手紙3章12節)」毎朝着る服を選んで着るように毎日選び取るべき品性、心構えの衣が謙遜です。謙遜というは決して自然に作られるものではありません。服を選ぶように、選び取るべきです。服を着替えるように我々の存在にいつも留まらせなければなりません。謙遜というものはイエスキリストの生き方でした。神の品性です。ですから、聖霊の助けを頂かなければなりません。神様はへりくだった者に無限の祝福を与えてくださいます。今年最後の主の御前に捧げるこの礼拝の時間!新しい新年を迎えながら、神の祝福のチャンスとしてつかみましよう。へりくだったイエス様を学び、イエス様を模範とし、我々も自分を低く指せ、自分の位置と役割と限界を覚えましよう。キリスト者として謙遜というものをいつもしかり身に着けることは一生涯の目標でなければならぬ課題です。今、新たに全能なる主の御前にへり下さり、クリスチャンプレイズチャーチで信仰の家族みなさんお一人お一人はイエスキリストのように謙遜の衣を着て、新しい新年さらなる神の祝福を頂き蓄える器となりますように主の御名によって祝福します。アーメン!